

# ニューズレター 2009 年度第 3 号

日本音楽表現学会 2010 年 3 月 31 日発行

## 第 8 回（響の都）大会予告特集

### 目 次

	頁
1. 【巻頭言】「練習」って・・・	柳井 修 2
2. 2010 年度会長・理事選挙結果報告	坂東 肇 3
3. 日本音楽表現学会第 8 回（響の都）大会のお誘い	3
1) 実行委員会組織	3
2) 大会日程	4
3) プログラムの概要と発表者氏名	4
4) 実行委員会特別企画 オプショナル・ツアー	4
5) 懇親会	4
6) 宿泊予約	5
7) ～ 11) 参加費、参加申込、送金先、申込み切、会場へのアクセス	5
4. 新入会員紹介	6
5. 日本音楽表現学会後援 会員によるコンサート案内	7
6. 会員による CD リリース	8
7. 『音楽表現学』 Vol.8 原稿募集	小西 潤子 10
8. 論文集『音楽表現学のフィールド（仮題）』の進捗状況報告	杉江 淑子 10
9. 事務局からの様々なお知らせとお願い	10
1) 『音楽表現学』 Vol.7 の記事訂正とお詫び	10
2) 年会費納入について	10
3) 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更	10
4) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法	11
5) ニューズレターへの投稿	11
6) 学会の会員サポート制度をご活用下さい。	11
7) 入会を希望される方へ（付「入会申込書」）	11
8) 「退会願」書式	12
9) 「コンサート等後援願」書式	12
10. 編集後記	12

日本音楽表現学会

所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6



事務局：〒 650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-4-3-801 安田香気付

Tel. & Fax. 078-360-1443

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmexs/>

年会費（5000 円）の振り込み→郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

## 「練習」って・・・

柳井 修 (ピアノ/理事)

音楽について思考するためには、その構造や原理から始まり、実に様々なアプローチがあります。演奏を通してそのプロセスを体感することは、この上ない喜びと感動を会得することに他ならないのですが、長くピアノ指導に携わっていると、教えることの重みは勿論のこと、昨今の社会情勢の激変に伴う質的变化から改めてその難しさも痛感するようになりました。

「音楽で自己表現する」と一言で述べることはできても、そのために必要とされる技術や理解を養うためには本人の資質、能力、忍耐はもとより、家庭や指導者等の環境が整えられてはじめて可能となるのです。つまり感性や表現力を生み出し磨き込むには膨大な時間と経済的支援が、そしてそれを可能とせしめるには長くて辛い「練習」(継続力)が絶対条件なのです。

ピアノはいとも簡単に音の出る楽器ですが、じっくり内部まで凝視すれば実に複雑で、まるで精密機械そのものです。鍵盤のタッチの使い分けによって様々な音色を生み出すのですから、この楽器を駆使できるまでに相当な時間を要することは必然だと言わざるを得ません。また音感を養うため、高度な身体的機能を得るためにも幼少期から始めることが望ましいわけですが、小さな子どもが毎日一人で「練習」することは決して容易なことではありません。取り巻く大人たちの忍耐と根気の支えが必要です。

何とか無事「練習」の習慣づけの難所を乗り越えると、次は広大な「技術」畑に出ます。身体もすでに大人の体格に近づき、走れるだけ走り回ればよいのですが、足許に咲いている可憐な花の美しさに気づくか否かで、その後の表現の幅や奥行きが大きく違ってくるのです。ところが最近の結果重視の傾向から、指導者も親も目先のコントロールを目指して必要最小限のことを集中的に練習させるため、残念ながら耳をすませてみたり新しい発想を促したりする暇も余裕もありません。このままでは技術における向上もさることながら、音楽への理解も偏ったまま終わってしまう危険性を孕んでいます。

「練習」「技術」を克服して表現される音楽には、豊かで深い「感性」がほとぼしっています。音楽は生き物です。美しい音楽に耳を澄まして聴くということは、自分の内なる声や音を聴くということだとマリー・シェフアーは述べています。これはすなわち、生の演奏を聴くことによってこそ伝わってくる演奏者の息づかいや感情のエネルギー、緊迫感、強いては作曲家の想いを受けとめ自

らの存在の小ささや未熟さに気づき、音楽への畏敬の念を抱くことであると思います。本来そうした美しいものとの出会いや感動を無意識下に蓄えておけばおくほど、内なる音は豊かになり喜びや美の価値基準は高まっています。

ところで幼少期にピアノを始めたものの、わずか数年で止めてしまった人はたくさんいます。皆一様に「練習」の割にはおもしろくなかったからだと言います。更に質問してみると生の演奏をあまり聴いていないことも分かりました。もしも前に述べた聴く体験を積んでおれば「練習」の目的や方向性がしっかり見えて、その後の音楽との関わり方も変わってきたかもしれません。彼らは「練習」を頭から嫌っているわけではありません。動機や目的をつかむことができれば一心不乱にやり遂げ、次なる課題も得たいと訴えてくるのです。

演奏と鑑賞は、音楽において必要不可欠な両輪です。これまで聴くことにおいてはその人の選択に任せていた面が強かったようですが、これからは演奏の場面に出会える機会を多く設けることが大切なことと考えます。2005年から東京で始まった「ラ・フォル・ジュルネ」はまさにその理想を具現化したものと言えましょう。本物の音楽を一人だけではなく皆で共有して楽しむ理念に基づき、1週間多くの場所で様々な形態による演奏会を開いています。最近はワークショップや子ども向けのイベントなど、企画の幅が一段と広がってきているようです。

私たちが音楽活動のあり方を考え直さねばならない時に来ているように感じます。(本学会でも論議できることを期待します。)  
「練習」はすなわち「生きる」ための仕込みとも言えます。今こそ生きた輝きを生み出す感動体験を、もっと広く積極的に伝えていくことが求められているのではないのでしょうか。そのために従来の形態にこだわらず、こちらから身近な場所で演奏の機会を作っていく。たとえばサロンや学校、病院、施設、公会堂等で共に楽しめる内容のアウトリーチ型コンサート等が考えられます。特に若年層を巻き込んだ内容、進め方も検討すべきでしょう。彼らが色々な音楽を聴いて、自ら演奏して、そして語り合ったときに、音楽の豊かさや美の価値観にきつと気づくはずで。そうすれば「練習」は練達し、大きな希望に満たされた表現が得られると同時に、アイデンティティの形成も可能となることと確信します。

# 日本音楽表現学会 2010 年度会長・理事選挙

選挙管理委員長 坂東 肇

2010 年度の会長・理事選挙は会員のみなさまのご協力を得て無事終了いたしました。ここに会長に届けました「選挙結果報告書」をそのまま掲載いたします。

## 2010 年度会長・理事選挙結果報告書

2010 年度選挙管理委員会

委員長 坂東 肇 印

委員 中 磯子 印

” 井上 朋子 印

2010 年度選挙管理委員会では、会長・理事選挙の開票を 2010 年 3 月 22 日（月）に神戸大学発達科学部音楽棟において行いました。その結果をここに報告いたします。

### 記

1. 投票総数：155 票
2. 有効投票数：155 票
3. 無効票数：0 票
4. 有効投票における各候補者の得票数：削除

役 職	氏 名	得票数
会 長	奥 忍	
理 事	安藤 政輝	
”	北山 敦康	
”	杉江 淑子	
”	谷口 雄資	
”	土門 裕之	
”	吉永 誠吾	

以上。

## 日本音楽表現学会第 8 回（<sup>きょう</sup>響の都）大会のお誘い

日本音楽表現学会第 8 回大会を京都女子大学で開催されます。当初は、学会員一人で本当に大丈夫なのだろうかとか大変心配されていた荒川恵子さん、パワーを全開にして準備に取り組んでくださいました。その結果、時と共に開催大学の先生方にもご入会いただき、大学の共催申請も受理されました。大会実行委員会は関西圏を中心に、これまで大会運営に関わって来られた方々にも入っていただきました。これまでも増して強力な体制となっています。

京都女子大学は西本願寺の援助によって設立された歴史ある大学です。今大会ではそのような大学の特色を十二分に生かして、これまでにない企画が行われます。まず、「オプショナル・ツアー A」では世界文化遺産で国宝の西本願寺内部を見学します。西本願寺では、この学会のために特別に専門的な説明をしていただけよう準備を進めてくださっています。「オプショナル・ツアー B」では、明治期に純粋な協和音を目的に製作された「純正調オルガン」を見学していただきます。純正調の響きを得るために分割された鍵盤、この学会のために田中正平博士の関係者からお貸しいただいた VTR 上映はまさに「響の都」大会の名を体現するものでありましょう。

このニューズレターに同封のチラシを用いて、周りの方々も是非お誘い下さい。チラシは発表者に 5 枚、その他の方には 1 部を同封しています。さらにご希望の際は事務局までお申し出下さい。京都女子大学と実行委員会委員一同一丸となって多数のご参加をお待ち申し上げております。

### 1) 大会実行委員会組織：

(敬称略)

実行委員長：村尾忠廣 副委員長：安田 寛 事務局長：荒川恵子

委員：阿部祐治、岡林典子、川口容子、菅 道子、小林公江、近藤晶子、笹野恵理子、佐野仁美、  
嵐 晴子、杉江淑子、鈴木慎一朗、高島克己、谷村宏子、豊田典子、中村順子、似内裕美子、  
林 睦、福本康之、山野てるひ、(学会本部兼務) 奥 忍、安田 香

## 2) 全体日程と会場

12日(土)												
	12:20	13:00	13:20	14:05	14:10	15:40	16:00	17:00	17:10	18:40	19:30	21:30
オプション・ツアー 理事会・編集委員会 実行委員会等	受付	開会式	基調講演	シンポジウム		総会		分科会I A,B,C,D,E		懇親会		
13日(日)												
	9:00	9:15	10:45	11:00	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45	17:00	18:30	
受付	分科会II A,B,C,D,E		分科会III A,B,C,D,E		昼食	分科会IV A,B,C,D,E		分科会V A,B,C,D,E		閉会	論文集編集委員会	

## 3) プログラム概要と発表者等氏名(敬称略)

(1)	オプション・ツアー (詳細は4)に記載)	A 世界文化遺産西本願寺見学 B 京都女子大学錦華殿と田中正平博士の純正調オルガン
(2)	オープニング	パフォーマンス 京都女子大「踊りサークル・京小町」
(3)	基調講演	「表現する身体」 河村 晴久 (重要無形文化財(能楽)保持者)
(4)	シンポジウム	「表現する身体をつくる」 安藤 政輝、河村 晴久、佐々木正利、山名 敏之
(5)	学会企画 統一テーマワークショップ	・声楽表現の理念と技法 應和 恵子、斉藤 祐 ・管楽器における表現の理念と技法 北山 敦康、仲戸川 智隆
(6)	ワークショップ	河村 晴久、後藤 丹・長谷川 正規、中村 隆夫、河村 義子・田上 耕三
(7)	デモンストレーション	李 敬美・中村 滋延
(8)	共同研究	小畑 郁男+深井 尚子、菅 道子+山名 敏之、村尾 忠廣+安田 寛+奥 忍
(9)	研究発表	五十嵐 陸美、伊達 優子、疇地 希美、長尾 智絵、三島 郁、堀田 光、佐々木 陽子、小森 光紗、佐野 仁美、阿部 亮太郎、吉田 恵子、加藤 晴子+加藤内藏進+藤本 義博、橋本 智明、中村 順子、嶋 晴子、海津 幸子、寺内 大輔、中 磯子+高橋 秀典、小波津 美奈子、佐野 晴美、山名 敏之、上山 典子、川北 雅子、光平 有希、鈴木 慎一朗、酒井 勇也、近藤 真子、鷺野 彰子、松井 萌、李 敬美、阿部 祐治
(10)	分科会司会	杉江 淑子、長岡 功、今 由佳里、田村 佳奈、田島 孝一、小島 千か、河本 洋一、小栗 志乃、村沢 由利子、志民 一成、仲 万美子、大槻 寛、矢内 淑子、原田 宏司、長友 洋喜、斉藤 武、木下 千代、榎藤 敦子、久野 将健、伊野 義博、武知 優子、田中 麻貴、水戸 博道、前田 則子、栗原 詩子
(11)	総会	資料は当日配布します。
(12)	懇親会	

## 4) オプション・ツアー：

実行委員会特別企画大会参加者のための特別公開(普段は見られません)学会初日オプション・ツアー

**A：世界文化遺産西本願寺見学**(書院・能舞台→飛雲閣→御影堂ほか) 参考HP：<http://www.hongwanji.or.jp/about/kiso/>  
集合時間：6月12日(土) 9:20

集合場所：西本願寺御影堂門入ってすぐ本願寺境内地のお茶所 アクセス <http://www.hongwanji.or.jp/about/kiso/>  
申込方法：大会申込書の該当欄に(√)をお願いします。

問合先：music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

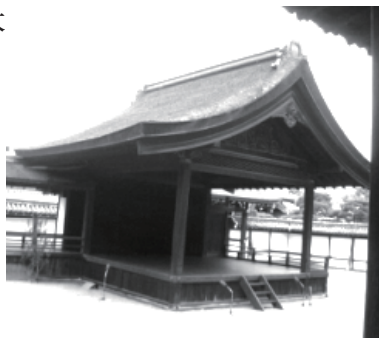
[見学場所の概略]

・本願寺書院：<http://www.tonkatsuichiban.com/map/Nishi/syoin.html> から引用

本願寺書院(写真①～③)は、桃山時代に発達した豪壮華麗な書院造の様式の代表的なもので、座敷飾(床、違棚、帳台構、付書院)を完備し、金碧障壁画や彫刻で飾られている。書院は、対面所と白書院に大別でき、対面所の西側に雀の間、雁の間、菊の間などの小室がある。白書院の北側には装束の間があり、対面所と白書院のあいだに納戸が二室、両書院の周りに狭屋があります。対面所は寛永年間(1624-1643)の造立で、白書院はそれよりやや古く、もとは別々の建物が後になって現在のように接合された。



南能舞台：現存する能舞台としては、日本最大



### 虎溪の庭 (特別名勝)

御影堂の屋根を廬山に見せた借景の技法を取り入れている。



飛雲閣：金閣、銀閣と並び京の三閣と称される。  
三階建ての一方だけに階を重ねた特徴ある建物。  
当時は周りに視界を遮るものもなく、  
三階は星がつかめそうな眺めだった事から摘星楼と呼ばれる。  
二階は三十六歌仙を描いた間で、  
外からその絵を数枚だけ眺めることができる。  
飛雲閣の出入りは、舟で行うのが正式で、1階に舟入の間がある。  
普段は中に入れない。

### B：京都女子大学錦華殿と田中正平博士の純正調オルガン

(プリンセスライン バスストップ大学B門前)

田中正平博士の関係者から演奏 VTR をこの学会のために  
拝借して上映予定。(初日午前中のみ)

これまた滅多にない機会です。

瀟洒なバルコニーからは京都市内を見下ろすことができます。



### 5) 懇親会：京都駅八条口南東

アヴァンティビル 8F マリアージュグランデ

「結婚式の披露宴は夜には開かれない」

この常識を逆から発想したのが今回の懇親会！

どうぞお楽しみに!!!

### 6) 宿泊予約：京阪交通社京都女子大学トラベルサロンが本大会のために八条口にある2つのホテルのお部屋を確保。

プリンセスラインバス利用に至便です。数に限りがあります。先着順になりますのでお早めにご予約ください。

申込先：京阪交通社京都女子大学 トラベルサロン (担当：田中春美)

Tel. 075-531-7293, Fax. 075-531-7295 joshidai@kei5.co.jp

ホテル京阪京都 6月11日 シングル 1泊朝食付き 8,000円 ツイン 1泊朝食付き 6,000円

6月12日 シングル 1泊朝食付き 10,000円 ツイン 1泊朝食付き 8,000円

新都ホテル 6月11日、12日 ツイン 1泊朝食付き お一人 8,000円

6月11日、12日 シングル 1泊朝食付き お一人 11,000円

\* 推奨ホテル、懇親会場、プリンセスラインバスストップは八条口側で至近距離  
(次頁「京都駅周辺主要スポット案内図をご参照ください。)

7) 参加費：「参加申込書」に記載。

8) 参加申込：以下の書式に必要事項と該当欄に(√)を記入の上事務局にお送り下さい。

第8回「響の都」大会参加申込書	
該当欄にチェックをお願いします。	
ご氏名：	
連絡先：〒	
E-mail	
参加費：学会員	5,000 円
	当日会員 1 日につき 3,000 円 (12 日( )、13 日( ))
	学部学生 1 日につき 2,000 円 (12 日( )、13 日( ))
懇親会費：	5,500 円
13 日(日)の弁当：	800 円
合計：	円
オプション・ツアー A 西本願寺飛雲閣等見学	参加 ( )

9) 送金先：会員の方には5月初旬発行予定の『大会要項』に郵便振替票を同封しますのでそれをお使いください。学会員以外の方はまず事務局に参加をお申し込み下さい。『大会要項』とともに振込用紙を送ります。

10) 申込〆切：2010年6月5日(土)

11) アクセス：

① 京都駅から

・八条口から

プリンセスラインバスストップ (220 円)

終点(京都女子大学B門)まで約10分

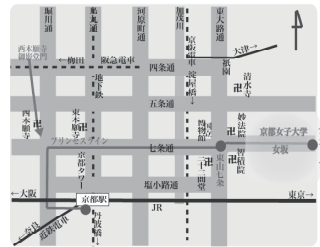
・烏丸中央口バス乗場から

市バス 206,208,100 系統「東山七条」下車 (220 円)

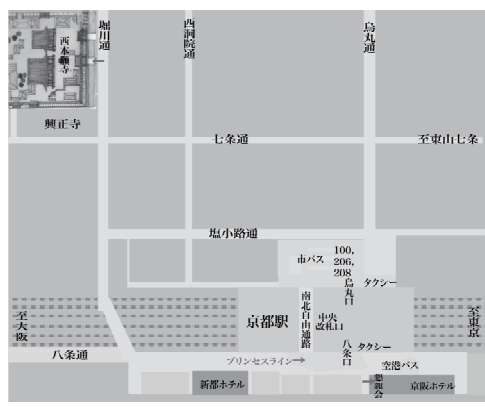
通称「女坂」を大学B門まで徒歩10分

② 大学B門プリンセスラインバスバスストップ) から

大学の塀に沿って学外道路を音楽棟まで徒歩約10分



京都駅周辺主要スポット案内図→



↓ プリンセスラインバス

印象的な深紅です。モノトーンでしか表せなくて残念！



イタリックは繁華街経由です。標準字体のバスをご利用ください。

土 曜								休 日							
7	01	21	26	36	44	46	56	7	01	17	33	44	49		
8	06	16	26	36	51	8	05	21	37	53					
9	01	11	14	21	31	46	56	59	9	09	14	25	41	57	59
10	06	16	26	39	44	55	10	13	29	44	45				
11	11	27	29	35	43	59	11	01	17	29	33	49			
12	07	14	15	23	31	39	47	55	12	05	14	21	37	53	59
13	03	11	21	31	41	44	59	13	09	25	41	44	57		
14	15	29	31	31	47	14	13	29	45						
15	03	14	19	35	51	59	15	04	14	20	36	52	59		
16	07	23	39	44	55	16	08	24	40	44	56				
17	11	27	29	43	59	17	12	28	29	44					
18	14	15	31	47	57	59	18	00	14	16	32	48	59		
19	13	29	44	45	19	04	20	36	44	52					
20	01	17	29	33	20	08	24	29	40						

---

## 新入会員紹介

---

プライバシーにつき削除

荒木 善子 さん } 日本音楽の夕べ

佐野 仁美 さん }

日 時：2010年3月12日（金）19:00 開演

会 場：岐阜県民文化ホール未来会館 長良川ホール

趣 旨：古典から現代までの日本の歌曲、箏曲、ピアノ曲の魅力を探る。

曲 目：山田耕筰《かやの木山》、中田喜直《ゆく春》、宮城道雄《さくら変奏曲》、  
後藤丹《さくら幻想曲》他

出 演：荒木善子、佐野仁美、今尾圭子箏ぐるーぷ

連絡先：荒木善子 Tel. 058-279-6570

橋本 悦子 さん 歌と郷土（津）のまつり

日 時：2010年3月22日（月祝）

会 場：三重県総合文化センター

趣 旨：和楽器を取り入れた学校音楽の推進

内 容：郷土の音楽と日本の歌の継承にあたり地域の大人と子どもが協同で音楽表現に臨む。

連絡先：橋本悦子 Tel. 090-1297-8721

越後 小百合 さん 日本の歌・世界の歌による演奏会「歌の翼にコンサート」

日 時：2010年3月26日（金）18:30

会 場：室蘭市市民会館（室蘭市輪西町2-5-1 Tel. 0143-44-1113

趣 旨：歌曲の演奏において、言葉と音楽の美しさをいかに伝えるかを探求する。

特集として、北海道出身の白川雅樹氏の心温まる作品を取り上げる。

曲 目：メンデルスゾーン；歌の翼に、秋の歌、近衛秀麿；ちんちん千鳥、

特集～白川雅樹の歌の世界～；おおきくなったら、星のしずく、やまのぼり、他

出 演：越後 小百合（Sop.）、他

連絡先：越後 小百合 Tel.& Fax. 0943-47-2636

木下 千代さん 木下千代ピアノリサイタル～ショパン生誕200年によせて～

日 時：2010年5月7日（金）19:00

会 場：いずみホール（大阪市中央区）

趣 旨：ショパンの初期から晩年までの作品をとりあげ、作風の変遷をたどる。

曲 目：ラ・チ・ダレム・ラ・マーノによる変奏曲、バラード第1番、マズルカ第17・26番、  
幻想曲、即興曲第3番、幻想ポロネーズ、夜想曲第18番、舟歌

連絡先：大阪アーティスト協会 06-6135-0503



山名 敏之 さん **ハイドン クラヴィーア大全 Vol.8 強弱記号の不思議**  
日 時：5月22日(土) 14:00 開演  
会 場：岸和田市立自泉会館  
趣 旨：クラヴィコード中心の演奏からフォルテピアノ中心の演奏への転換という当時の演奏観に添いながら、ハイドンの全クラヴィーア作品の魅力を再考する研究演奏シリーズ。第8回では、クラヴィコードとフォルテピアノで演奏して、強弱記号にまつわる様々な謎を読み解きたい。  
曲 目：ハイドン ソナタ第20番 B-dur、ソナタ第40番 Es-dur、ソナタ第47番 h-moll、ソナタ第60番 C-dur、ソナタ第61番 D-dur、12のメヌエット、6つの変奏 C-dur、ファンタジア C-dur (番号はウィーン原典版)  
入場料：科学研究費補助金(代表者：山名仁、課題番号：21520141)によるため無料  
連絡先：yamana@center.wakayama-u.ac.jp

石場 惇史さん **軽井沢 四季の音楽だより「はるのこんさあと」**  
日 時：2010年5月30日(日) 14:00 開演  
会 場：軽井沢 大賀ホール  
趣 旨：石場惇史の「音楽の鑑賞」をテーマにゲストを招き、ゲストの演奏とおしゃべりを中心にしたコンサート。  
曲 目：モーツァルト：ピアノ協奏曲第23番、ハチャトゥリアン：剣の舞、ビゼー：カルメン組曲より、他  
入場料：3,000～2,000円(全席指定)、小・中学生200名無料ご招待(要予約)  
連絡先：石場プロダクション 03-3991-5206、0267-41-5174

赤松 林太郎さん **赤松林太郎ピアノリサイタル 2010**  
日 時：2010年5月30日(日) 14:00 開演  
会 場：北海道釧路芸術館 アートホール  
趣 旨：釧路地域でのクラシックピアノ音楽の啓蒙と定着に寄与し、音楽ファン、ピアノ学習者にとって良い生演奏を聞く機会を作りたいという楽器店の演奏会。  
曲 目：ショパン：マズルカ 第7番 Op.7-3、第10番 Op.17-1、第13番 Op.17-4  
ベートーヴェン(リスト編曲)：交響曲 第9番 Op.125 第4楽章「歓喜の歌」、他、シューマン、ブゾーニなど  
入場料：(前売り) 一般2,500円 学生2,000円 (当日) 3,000円  
連絡先：(株)エルム楽器釧路支店 0154-23-4471(佐藤圭介)

赤松 林太郎さん **赤松林太郎ピアノリサイタル 2010**  
日 時：2010年6月12日(土) 18:00 開演  
会 場：(株)エルム楽器室蘭支店サロン  
趣 旨：ショパン生誕200年の今年、エルム楽器でのCD収録を行ったピアニスト赤松林太郎によるショパンとシューマンを中心としたコンサート。  
曲 目：スカルラッティ：ホ長調 K.531/L.430、ソナタニ短調 K.141/L.422、  
ショパン：ポロネーズ第1番 Op.26-1、スケルツォ第1番 Op.20  
ベートーヴェン：ピアノソナタ第23番 Op.57、他、シューマン、ヴェチェイなど  
入場料：2,000円  
連絡先：(株)エルム楽器室蘭支店 0143-44-1156(大沢孝弘)

---

## 会員による CD リリース

---

- 山田 貢さん “Mitsugu Yamada J.S. Bach und das Lautenclavier”  
NAMI RECORDS CO. LTD、WWCC-7637 価格：2,940 円（税込）  
山田貢氏自らによる復元製作ラウテンクラヴィアによるバッハとヴァイスの演奏。  
収録曲：組曲ホ短調 BWV996、プレリュード、フーガとアレグロ変ホ長調 BWV998、他



### 『音楽表現学 Vol.8』原稿募集

学会誌編集委員長 小西 潤子

『音楽表現学』Vol.8 の投稿〆切は 2010 年 5 月 31 日（月）です。執筆要領や投稿の方法については『音楽表現学』Vol.7 の巻末、または学会 HP の「投稿規定」をご覧ください。なお、5 月末の時点では 2 段組ではなく、1 段組でご応募ください。HP には「参考文献表記法」等も例示しています。



### 論文集『音楽表現学のフィールド』（仮題）の進捗状況

日本音楽表現学会「論文集」編集委員会委員長 杉江 淑子

現在の状況から判断すると、当初予定の 4 月末入稿は 1～2 ヶ月ほど遅れそうな見通しです。しかし、編集委員会は 2010 年度内の完成を目指して努力をする所存です。原稿の提出については以下の通りです。

- ・ 第 1 部第 2 章～第 6 章の予定原稿 18 本中、3 月 25 日現在 13 本の原稿が到着しています。第 1 章を依頼したゲスト執筆者にも先日執筆の再確認をしました。
- ・ 第 2 部の応募原稿については 6 本が採択され、現在、担当編集委員とやりとりしながら、入稿に向けての完成を目指しているところです。
- ・ 第 1 部執筆者の方々には文字数、見出しの付け方、引用文献の記載方式等を整理した後、必要に応じて修正をお願いすることになります。各章の原稿が揃った段階でその作業に入りたいと考えています。進行計画に沿ってご協力をお願いいたします。

---

## 事務局からのさまざまなお知らせとお願い

---

### 1) 『音楽表現学』Vol.7 の記事訂正とお詫び

以下の誤りがありましたのでここにお詫びをすると共に、記事の訂正をお願いいたします。

p.88 右欄下から 2 行目 誤 発表者：熊谷 百合子（音楽教育／北海道富良野平高等学校）

→正 発表者：熊谷 百合子（音楽教育／北海道富良野高等学校）

p.90 右欄下から 2 行目 誤 発表者：渡辺有美（ラテン音楽／名古屋音楽大学大学院）

→正 発表者：渡辺有美（ラテンアメリカ音楽文化／名古屋大学大学院）

### 2) 年会費納入について

- ・ 学会は皆様方の年会費で運営されております。機関誌の発行、大会の開催などさまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。今年度の総会において会則改定が認められ、3 年以上年会費滞納の場合には「除名」が適用されることとなりましたので、ご注意下さい。
- ・ 年会費については『音楽表現学』Vol.7 巻末に「経費関係細則」が掲載されています。なお、学生会員は、学部生に限られます（会則第 5 条）。
- ・ 納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、右側の「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用 の時は「ご利用明細票」）に、納入年度のメモをお残しいただくことをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めての領収書発行はいたしていません。
- ・ ATM での納入をお勧めいたします。会計上も助かります。（窓口：120 円、ATM：80 円）

### 3) 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更

事務局では、さまざまなお知らせをメール配信いたしておりますが、リターン・メールが常にあります。『音楽表現学』他、重要書類が変奏されることもあります。変更は必ず事務局までお届けください。

### 4) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

ご希望の方はメール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3 は 1部 1500円+送料

Vol.4～Vol.7 は 1部 3000円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3 は 1部 3000円+送料

Vol.4～Vol.7 は 1部 3500円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

### 5) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。テーマは何に關してでも自由です。皆様の投稿をお待ちします。

- ・ 研究ノート、随想、演奏会やCD、書物などについての評論：1600字以内
- ・ コンサート案内：学会後援（申請については後述）のものを掲載します。
- ・ 新刊案内・CD/DVDリリース：会員による刊行物の紹介を行います。上梓されたら購入方法なども含めてお知らせください。
- ・ その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・ 投稿受付は随時、事務局宛ワードの添付書類でお願いします。

### 5. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・ 研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、掲載の旨をお記し下さい。
- ・ 大会の口頭発表は、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ・ コンサートの後援とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベントなどの活動を学会は「後援」します。最終頁の「後援願」の様式でお寄せください。

### 6. 入会を希望される方へ

以下の「入会申込書」の書式を参考の上、メール本文に貼り付け、ワード文書添付、または郵送で事務局まで送付してください。事務局から年会費（5,000円）納入のための郵便振込票を送ります。事務局ではご入金の確認をもって手続きを進め、「入会」が承認されれば「日本音楽表現学会入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。なお、HPからダウンロードしてメール添付で申し込む方法が最も便利です。

<b>入 会 申 込 書</b>	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
	年 月 日
氏 名 (ふりがな)：	
専門分野：	
住 所：	〒
所 属：	
連絡先：	〒
連絡先電話番号：	
連絡先 Fax. 番号：	
e-mail アドレス：	
推薦者名 (学会員・1名)	
音楽表現学会に期待されること。ご意見等：150字まで	

\*学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届きます。お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

## (2) 「退会願」書式

退 会 願	年 月 日
日本音楽表現学会 会長 ○○○様	
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。 なお、今年度分までの会費は納入済みですのご確認をお願いいたします。	
氏 名：	
連絡先：	
連絡先電話番号：	
e-mail アドレス：	
退会理由：	

## (3) 「後援願」書式

「後援願」が受理されれば、「後援願受理のお知らせ」文書がお手元に届きます。ポスターやチラシの印刷に後援名義が間に合うよう、ゆとりを持って「後援願」をお送り下さい。また、受理されたコンサート等は学会 HP に順次掲載します。

コンサート等後援願	年 月 日
日本音楽表現学会の後援をお願いします。	
氏 名：	
所 属：	
名 称：	
趣 旨：	
主な内容：	
日 時：	
会 場：	
連 絡 先：	



日本音楽表現学会 役員名簿	編 集 後 記
会 長：奥 忍	3月。今年も卒業式を終えて多くの若者達が社会に巣立っていきました。教員としては、反省とともに新たな挑戦に臨もうとする時でもあります。
副 会 長：佐々木正利 安田 香	そんな中、今回の巻頭言でも、たくさんの学びと気づきがあると感じられた方が多いのではないのでしょうか。音楽活動で大切にしたい「考え方」や「捉え方」「これからの課題」が、たくさんのキーワードを用いてとても分かりやすく論じられています。中でも「練習」はすなわち「生きる」ための仕込み、という言葉に目が留まります。
理 事：権藤 敦子 谷口 雄資	生きた輝きを生み出す感動体験の大切さ、その活動を広めていくことの意義、そして教育の原点や今後の音楽活動のあり方をみなさんとともに考え、学ぶことのできる1年でありたいと思います。
土門 裕之 柳井 修	(土門裕之)
会 計 監 事：加藤 晴子 長岡 功	
編集委員長：小西 潤子	
委員：伊野 義博、河本 洋一	
木下 千代、小畑 郁男	
佐野 仁美	